

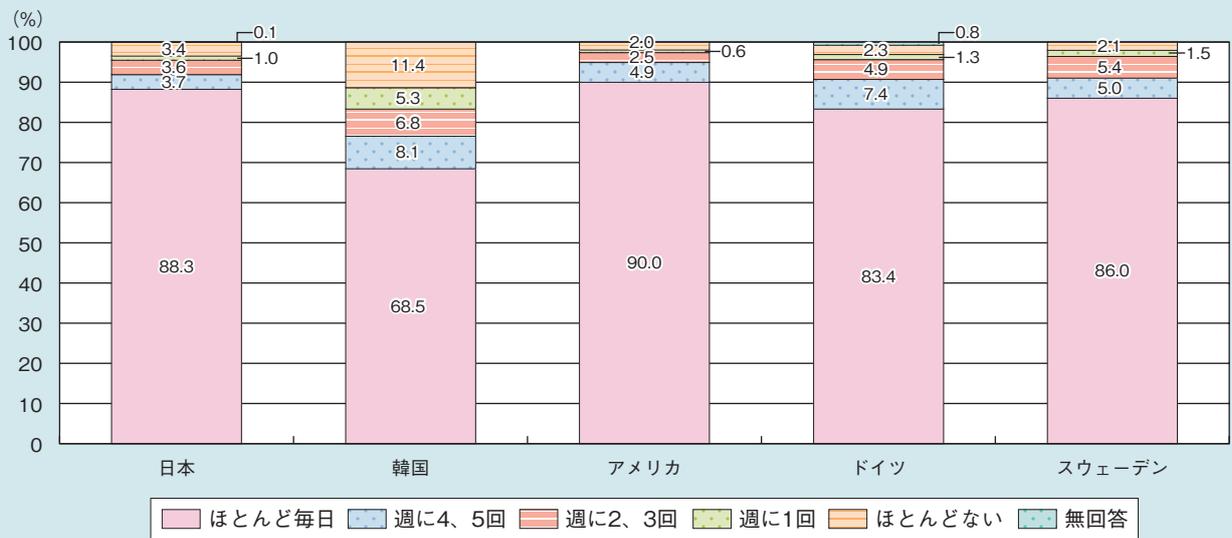
また、「地域のつながりを感じる」人は、一人暮らしの男性で56.9%、一人暮らしの女性で68.0%と、一人暮らしの人で低い傾向にある（図1-3-1-4）。

## 2 国際比較調査で見る日本の高齢者の特徴

- 国際比較で見ると、日本は「ほとんど毎日会話している」人の割合がアメリカに次いで高いが、友人、近所の人との関係は希薄  
内閣府が、日本、韓国、アメリカ、ドイツ、ス

図1-3-2-1

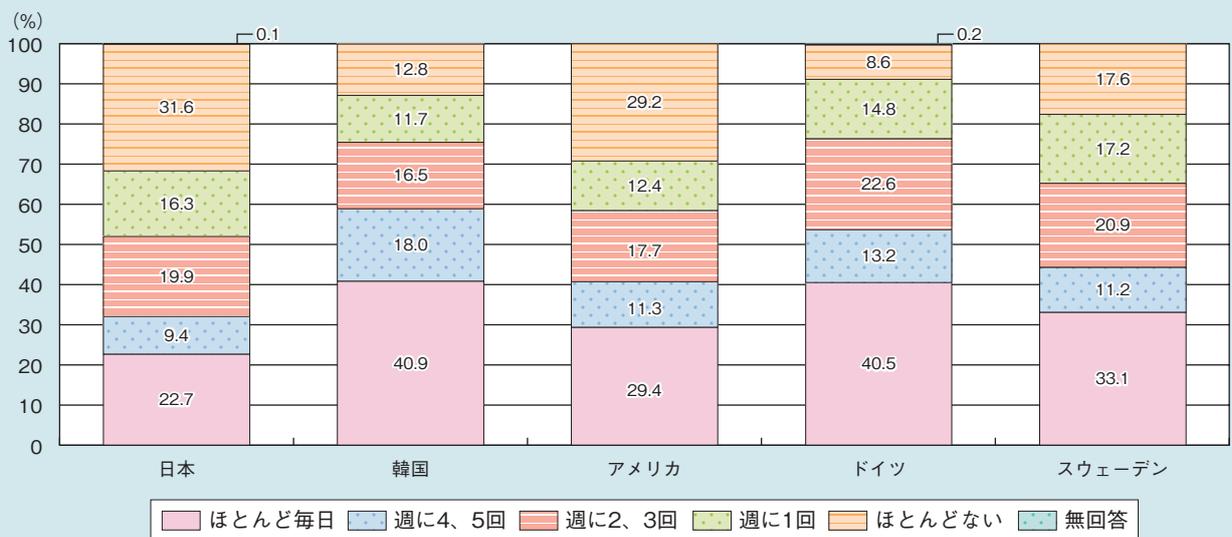
〈会話の頻度〉あなたは普段どの程度、人（同居の家族を含む）と話しますか？（電話やEメールを含む）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
（注）調査対象は、60歳以上の男女

図1-3-2-2

近所の人たちとの挨拶以外の会話の頻度



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
（注）調査対象は、60歳以上の男女

ウェーデンの5か国で60歳以上の人を対象に実施した意識調査（国際比較調査）の結果から、日本の高齢者の社会的孤立の状況を見てみる。

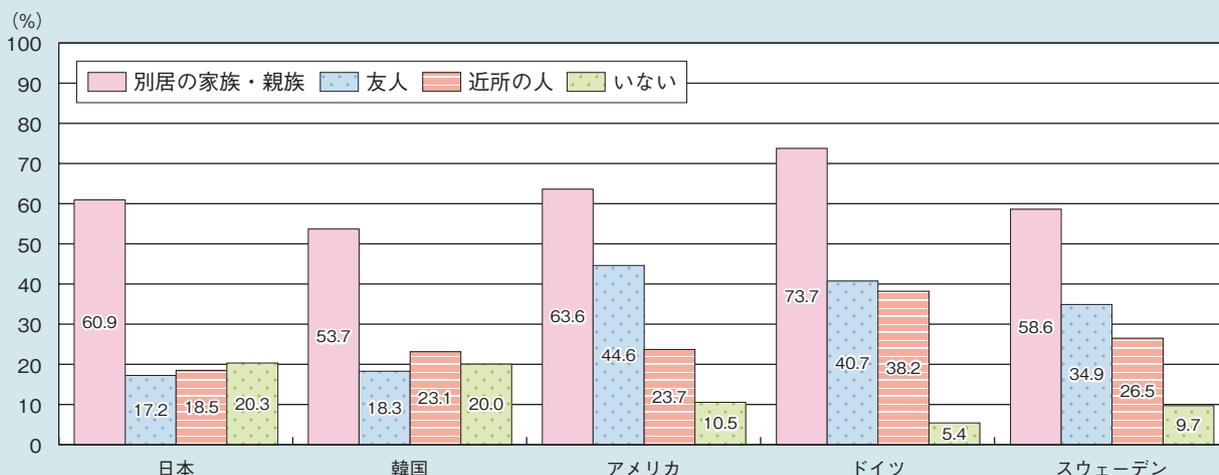
まず、日常における「会話の頻度」を見ると、日本は、「ほとんど毎日」会話している人の割合が88.3%とアメリカに次いで高くなっている（図1-3-2-1）。

その一方で、「近所の人たちとの挨拶以外の会話の頻度」を見ると、日本は「ほとんど毎日」の

割合が5か国中最も低く、週に1回以下（「週に1回」と「ほとんどない」の合計）の人は47.9%で5か国中最も高かった（図1-3-2-2）。

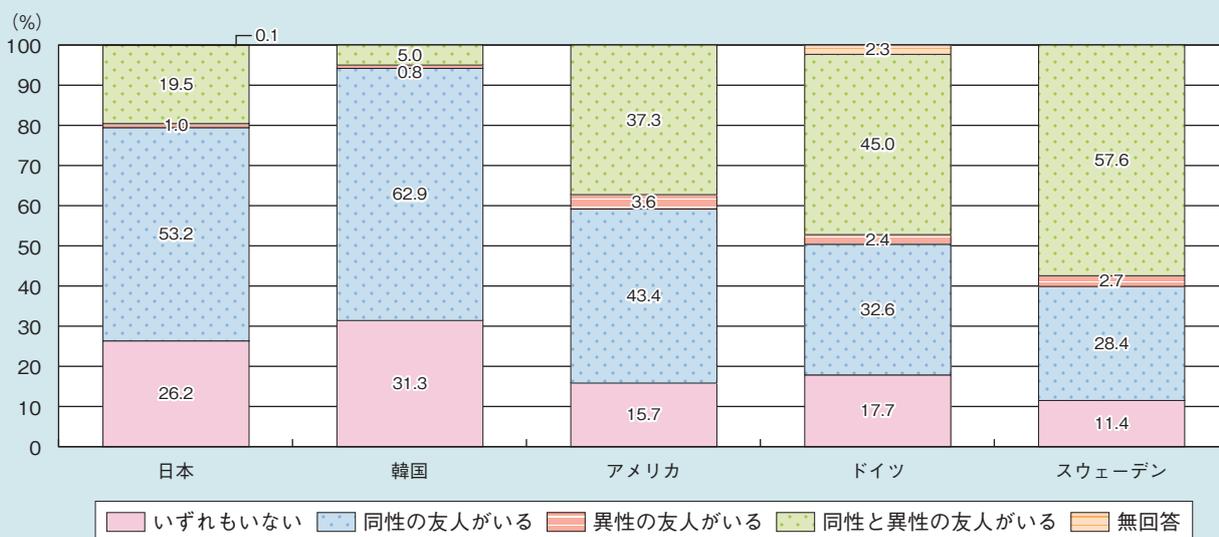
また、「同居の家族以外で困ったときに頼れる人」がいない割合は、日本は20.3%と韓国とほぼ並ぶものの、5か国中最も高かった。また、「同居の家族以外で困ったときに頼れる人」として「別居の家族・親族」を挙げる人の割合は、日本は60.9%と韓国、スウェーデンより高いが、「友人」、

図1-3-2-3 同居の家族以外で困ったときに頼れる人の有無（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
（注）調査対象は、60歳以上の男女

図1-3-2-4 家族以外で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人の有無



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

「近所の人」を挙げる人の割合は17.2%、18.5%とそれぞれ5か国中最も低いという結果になった(図1-3-2-3)。

次に、「家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人」の有無をきいたところ、「いない」と答えた人の割合は、日本は26.2%と韓国に次いで高い。また、そのような友人がいる場合でも、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較して、「同性の友人」だけがいると答えた人の割合(53.2%)が高く、「同性と異性両方の友人がいる」割合(19.5%)は低くなっている(図1-3-2-4)。

同調査によれば、世帯構成は、日本は他の4か国より単身世帯の割合が低く、同居の家族がいる世帯の割合が高くなっており(図1-3-2-5)、また、困ったときに頼るのは、同居の家族以外では友人や近所の人より別居の家族・親族であることから、日本の高齢者は家族・親族という血縁関係を中心に人間関係を構築して

おり、近所の人や友人との関係がやや希薄である様子がうかがえる。

### ③ 高齢者の社会的孤立を防止し、高齢者自身を「地域」の支え手に

#### (1) 高齢者の社会的孤立がもたらす問題点

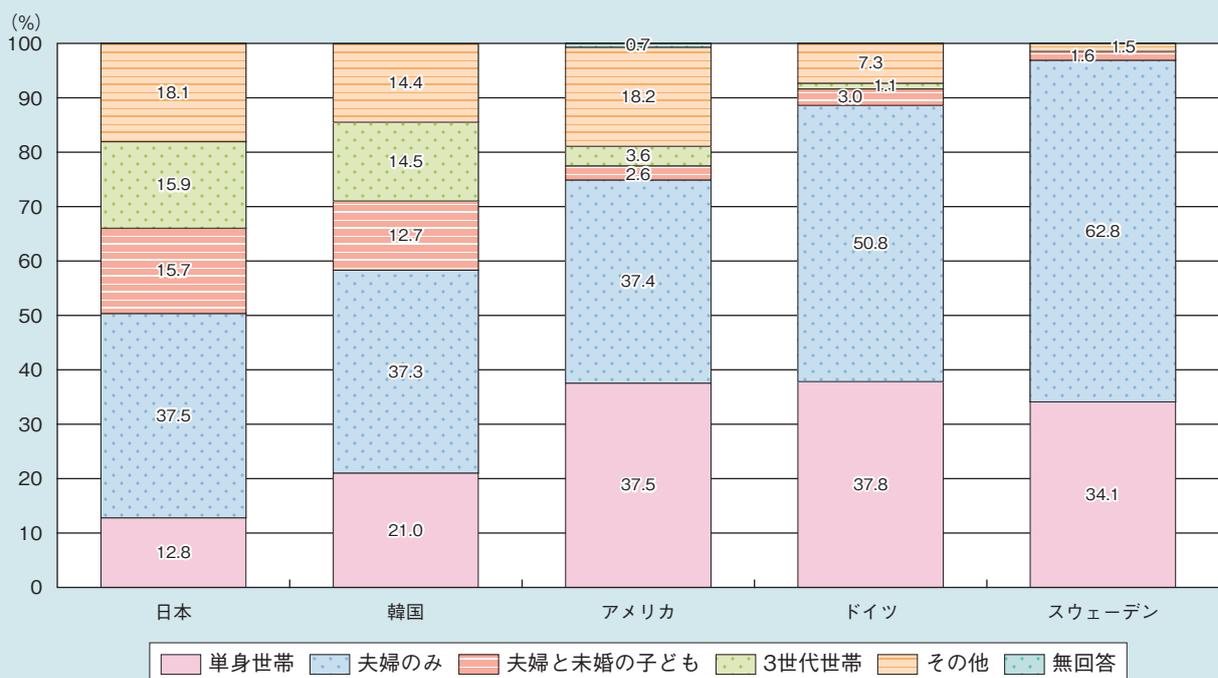
##### ア 生きがいの低下

誰とも会話をしない、近所づきあいをしない、困ったときに頼る人がいないといった、社会から孤立した状況が長く続くと、生きがいを喪失したり、生活に不安を感じることもつながる。

意識調査の結果から「生きがいの有無」を見ると、全体では「生きがいを感じていない」人の割合は12.9%であるが、性・世帯構成別にみると、一人暮らしの男性で34.9%と高くなっている。

また、会話の頻度別に見ると、「生きがいを感じていない」人の割合は、毎日会話をしている人

図1-3-2-5 世帯構成(調査回答者)



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成22年)  
(注) 調査対象は、60歳以上の男女